

コロナ禍の中でも継続した学びを！

特定非営利活動法人地域ケアさぽーと研究所

下川 和洋

訪問カレッジ@希林館学生

岩村 和斗 佐藤 友哉

はじめに

特定非営利活動法人地域ケアさぽーと研究所では、特別支援学校を卒業後、重い障害のため、地域の通所施設などに毎日通えなかったり、病院・施設に入所されていたりする方々に対して、「訪問カレッジ@希林館」（以下、訪問カレッジ）という訪問型の生涯学習の事業を行っています。

2020年度の学生は21名で、そのうち、人工呼吸器装着者は13名です。彼らの学びをサポートする学習支援員は21名で、一人で訪問したり、複数名で訪問したりと、学生のニーズに合わせて学習支援体制をとっています。

さて、2020年1月28日に新型コロナウイルスの国内最初の日本人感染が報告され、政府が緊急事態宣言を発出した4月7日から5月25日までは、訪問カレッジも原則として休講にしました。5月の大型連休明けからオンライン授業などを始めていき、徐々に対面授業も行うようになりました。しかし、家庭や入院・入所している病院・施設の

状況によって、今年度いっぱいお休みにしている方もいます。

訪問カレッジの学生の岩村和斗さんは、5月11日から6月1日までオンライン（Zoomミーティング）を使って学び、以後は対面での学習を再開しました。同じく佐藤友哉さんは入院中の病院の方針で家族の面会もできない状態にあり、5月11日から現在もオンライン（Skype）を用いて学びを続けています。

本稿では、この間の「わいわい文庫の活用」を中心に学びの様子を、岩村さんと佐藤さんに報告してもらいます。

岩村和斗さんの学び



①自己紹介

岩村和斗です。訪問カレッジでは、パソコンでフェイスブックに文章を書いたり、アイパッドで、ビッツボードでゆるキャラと天どんマンとミッキーマウスのゲームで全問正解したり、英語で全問正解した。

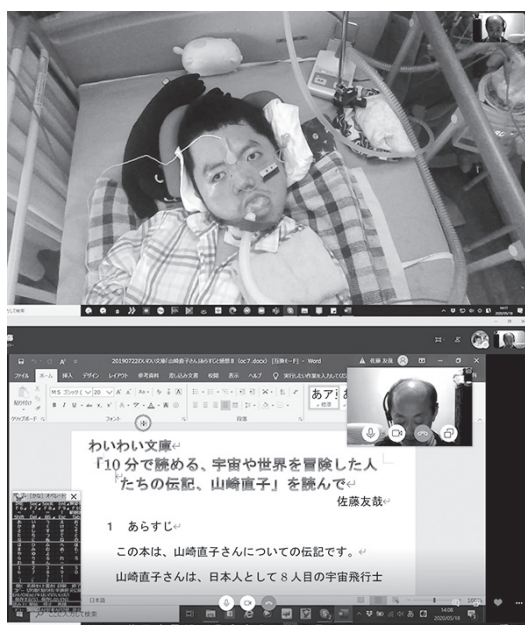
わいわい文庫では、あらすじと感想文を書いて、勉強をしている。

②訪問カレッジの学習

月曜日に下川先生は、オンラインで授業をした。お父さんと訪問介護ほたるの池部さんも一緒に勉強をした。

わいわい文庫で、『へいわってどんなこと?』の本を読んだ。パレードがあった。麒麟がいた。爆弾があった。本を読んで、麒麟がいたから、楽しかった。今、日本は、爆弾の戦争をしないので、平和です。

佐藤友哉さんの学び



①自己紹介

私は、いままでずっと両親と一緒に、電動車いすで病院の敷地内を散歩したり、外出や外泊などをしたりして、過ごしていました。ところが、今年は新型コロナウイルスの影響で4月から病院の面会が禁止され、いまではなかなか両親にも会えなくなってしまいました。両親と会えなくなってからは、車いすで散歩などをしたりするのがむずかしくなり、ベッドでの生活が増えたので、とても寂しい思いをしています。

そうした状況ですが、面会が禁止された4月から、両親とは毎日夕方にパソコンのSkypeという通信を使用し、お話をしています。直接両親と会えなくなってしまったのはすごく残念ですが、Skypeで毎日お話ができてうれしいです。

②訪問カレッジの学習

緊急事態宣言が解除された5月の連休明けから下川先生とはSkypeで「画面共有」をしながらオンライン授業をしています。

わいわい文庫で読む本を選ぶ方法は、先生とSkypeで「画面共有」をしたうえで、Dropboxの共有フォルダを活用し、私のパソコンに「わいわい文庫の書影ポスター」のPDFファイルを送っていただきます。先生から送られたPDFの書影を1冊ずつ順番に見ていき、私が気に入った本や先生がおすすめの

本など、読書してみたい本を1冊選びます。

読書してみたい本を決定して先生にSkypeでお伝えし、今度は読書する本のデータを共有フォルダで私のパソコンに送っていただきます。送っていただいた本のデータを私がオペレートナビで自分のパソコンを操作し、共有フォルダから自分のパソコンに作った「わいわい文庫のフォルダ」に移動します。その後、移動させた本のデータを音声で読み上げさせ、読書をしています。1冊の本をすべて読書し終えた後、ワードで本のあらすじと読書した自分の感想を書き、読書感想文をまとめています。

私は、今までも時々自分の祖父や祖母とSkypeを使用してお話をしたことはありましたが、Skypeで画面共有などをしたことが一度もありませんでした。今回、下川先生とオンラインで授業をし始めたことにより、いままで知らなかった画面共有などの使い方を知ることができたので、オンラインでの授業もなかなか楽しいと思いました。

しかし、先生とオンラインで授業をしている時に、途中で私のパソコンがフリーズしてしまったりすることが時々あり、その時には授業を一度中断し、もう一度先生とSkypeをつなぎ直さなければならなくなる場合があります。先生と対面で授業していたときは、

私のパソコンがフリーズしてもすぐに再起動などをお願いできたので、早く先生と直接お会いし、授業ができる状況に戻ってほしいと思っています。

おわりに

岩村さんは、本人に読書する本の選択を任せると、対象年齢「幼児～低学年」の本をいつも選んでいました。お母さんからは、「絵が多いものばかりじゃなくて、もう少し字が多いものを選びなさい」と叱られています。しかし、選んでいる本は岩村さんご自身が小学生の頃に読み聞かせしてもらったものが中心であり、「読んでもらったことがある本」なのです。今回、『平和ってどんなこと?』を本人が自ら選択したのには、私たちも驚きつつも喜びました。見たことあるもの・慣れ親しんだものから少しでも新しいものにチャレンジするのは、学びの継続の効果だと思います。

佐藤さんは私に、「先生のおすすめの本を教えてください」と要望しました。そして、その本を読書の課題本にしたことがあります。書影やタイトルから選ぶだけでなく、他者からの情報を得て選択するのも良い判断だと思います。

教育基本法第3条(生涯学習の理念)は、「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができる

よう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られな

ければならない。」としています。訪問カレッジの学生の学ぶ姿から、まさに生涯学習の理念を見ることができます。

